

目からウロコの
必笑レズン!!

新 GOLF 練習嫌いはこれを読め!
「スイング強化書」

内藤雄士



ツアープロ×
弘兼憲史

漫画家



大反響
発売中

オールカラー 1280P
定価 12600円
978-4-08-103154-9
小学館

よ。

この元秘書の証言に対し、細川氏の遺族は「すでに他界しているのだからいい」とした上で、「以前受け取ったと本人がマスコミの取材に答えているはず。それ以上は家族でも知らない」と回答した。

「い」という。藤原氏の遺族には話が聞けなかった。田原総一朗氏は、「そのようなことは一度もない。すでに話したように政治家からカネを渡され返したことはあったが、官房長官の秘書には会ったこともない」と回答した。

機密費と派閥のカネは違う

こうした渡した側の証言に対し、メディア側はどう応えていくのか。

前回のNHK政治部元官邸キヤップ、川崎泰資氏の告白に続き、産経新聞の元政治部長、花岡信昭氏が取材に応じた。花岡氏は戦後生まれとして初の政治部長になり、以降、論説副委員長、客員編集委員などを歴任。現在は拓殖大学大学院教授を務めている。記者クラブメディアの解説委員や編集委員が軒並み沈黙を貫くなか(前号のアンケート参照)、次のように答えた。

野中さんは、本当は喜場まで持って行くべき話を、

よくいうようになって思った。僕たちは権力側とやり合いながら新聞を中心とした政治ジャーナリズムを作ってきたつもりだが、この問題でそれ全体がやましいもののように見られているとしたら、口惜しい。僕自身の体験として、実際に渡しているところを見たり、自分がもらったりしていることは一切ない。僕は政治ジャーナリズムの世界にとっぷりつかっていたわけだが、(政権側が記者に)メシを食わすということはあったにせよ、現金を渡すことが常態化したり、全体に蔓延していたとは思えない。

ただし、派閥からの歳事

中元の類はあった。大平(正芳)さんからは讃岐うどん、中曽根(康弘)さんからは下仁田ネギ。河本敏夫さんからはお仕立て券付きのワイシャツ。たぶん3万5万円分ぐらいのお仕立て券で、それをデパートに行く商品券に換えてもらえる仕組みになっていた。

機密費は一切受け取っていないとしながらも、原稿などの対価として派閥のカネは受け取っていたという花岡氏の「理屈」に、私は違和感を覚えざるを得ない。しかし、田原氏と同様、実名で取材に応じ自らの体験を明かした点は、黙殺している他の記者たちと大きく異なる。繰り返し指摘してきたことだが、問題は「政治とカネ」の問題で疑惑をかけられたメディア幹部や政治部記者が、一切の説明責任を果たさず逃げ回っていることだ。なぜ彼らは、田原氏や花岡氏のように正々堂々と反論しないのか。

この問題に真摯に対峙しなければ、いつまでも新聞、テレビの政治報道は、元秘書のいうように「ちゃんちゃらおかしい」ままである。